

1 目的と経過

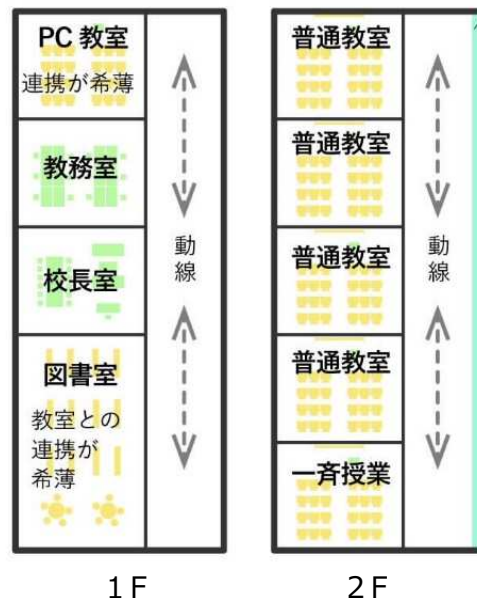
これからの学びにふさわしい学習空間について検討するとともに、効率的な施設の整備・維持管理手法について、建築、財政(官民連携)、環境、防災、教育等の専門家を招き、外部有識者により検討。

2 検討内容のまとめ

テーマ：変化の激しい予測困難な時代を生きていく、未来の子供たちのための「これからの学校づくり」 ← 建築家等による県立学校全体の整備方法についての議論は、全国的に珍しい取組。

これまでの学校（代表的な県立学校）

画一的な教室 移動だけの廊下



これからの整備方針（主な検討内容）

- 空間デザイン（構成する4つの要素）
1 学習空間
2 生活空間
3 執務空間
4 共創空間
○空間を補助する要素
○空間の配置
○質の高い豊かな空間
○長期的な視点による施設整備計画

これからの学校（検討内容のイメージ化）

これからの学校のイメージ：先進事例(①～⑥)



これからの学校のイメージ



バルコニーやテラス等外部空間も学びや生活の場になる
可動機を置くフレキシブルラーニングエリア
廊下との連携による機能拡張

最終報告のイメージ図に置き換え予定

地域との関係性の変化
少子化の課題
財政負担の軽減

○地域と共生する学校
社会的資産
長野県の多様性
複合化や共有化

○整備の手法
「PPP・PFI」施設整備、維持管理及び運営における民間活力・サービス提供の活用
「PFI以外の民間活力」等の検討

新しい学校を実現するための仕組みづくり

「プロポーザル方式」等、高いデザイン力や優れたアイデア、提案を受ける仕組み
多様な個性を持つ地域の特色等を生かした地域に親しまれる学校づくり

整備後の学校運営、デザインされた学校を使いこなす
コンセプトを実現する「ヒト(教職員)」の重要性、設計思想を施設管理者に伝える仕組みづくり